

1日目 クラカウ

立花ゼミ（ねこ屋敷の住人とこねこ）のアウシュビッツツアー開始

今回の立花ゼミ有志によるツアーの特徴は、
現地集合、現地解散！
立教立花組、別名乱歩通り6号館ねこ屋敷の住人と、
学部生ゼミの「こねこ」、そして東大立花ゼミの見聞録の「ネコ」たちは、
ツアーが始まる前はどこを回ってきてもいい、
ツアーがおわったあと、どこにいてもいい、
ただひとつの決まりは、
アウシュビッツ観光の起点となるポーランドの古都、
クラカウの指定のホテルに
ツアー開始前日の9月2日夜までに、集合すること！
気まぐれなネコの本性に従い、
アウシュビッツ以外のヨーロッパも散策できるようになっているのです。
ネコたちにとって、ヨーロッパは狭いのです。

ねこ屋敷の主人・立花先生は、
チェコのプラハからドイツに抜けベルリンへ、
そこから空路でアウシュビッツへ向かいます。
ツアーのあとはポーランドの首都ワルシャワに向かい、
そこから再び機上の人となり、日本へ。
当時博士課程の学生だった私は先生より一足早くフランクフルトに入り
ドイツ国内の数都市を調査してから、ベルリンで立花先生と合流しました。
といっても、
先生と一緒に、ベルリンの風（Berliner Luft）を堪能する時間はほぼありませんでした。
昼間は、周辺都市で聞き取り調査を敢行していたのです。
毎夜食事をともにしながら、翌日の地図や交通手段を確認、
主人ネコがひとりでも街を探索できるように計画するのみです。
中堅ネコのひとはロンドンからベルリンに入り私たちと合流、
おわったら花の都パリに旅立ちました。
初ヨーロッパの学部生ネコ「こねこ」のひとは、
ツアーにあわせてクラカウに直行、
終了後はミュンヘンに数日滞在しました。

ネコたちがヨーロッパ中を散歩している途中、
4日間だけポーランドで一緒に行動する、
そんなツアーだったのです。

この現地集合、現地解散は、海外にあまり慣れていない人には、
酷な響きだったかもしれません……

けれども、古猫・立花先生と一緒にアウシュビッツを回れるなんて千載一遇のチャンス！
ネコたちは、ちゃんとその重要性を理解し、現地集合してくれました！

海外ほぼ初体験のネコにとっては、まさに清水の舞台から飛び降りるような気持ちで臨んだようです。

今回のツアー実施を支え、個々人の前泊、延泊、航空券の相談にも柔軟に対応していただいた富士国際旅行社の遠藤さんにもとっても感謝します。

とはいえ、迷いネコが続出するのも困るので、集合場所にするホテルは
分かりやすい駅前にしました。

(予定より1000円高くなってしまったのですが……利便性を考えると妥当な値段かと)

そのホテルがびっくりするほど高級でおしゃれ！

これからアウシュビッツに行くのに、そんなところに泊まっていいの？

と思っただけ……



ホテルの概観。左手の線路は市電、右手奥に中央駅がある。



ホテルの内部

実は、10年前に最初にウラクフに来た時にも、「一番駅に近いホテル」に泊まりました。
私の記憶の中では古きよき建物の風情が残る「安ホテル」

「一番駅に近いホテル」そして値段を聞いて、私は勝手に、改装して、ユーロの一員になったので値上がりしたあのホテルに泊まるのだらうと思っていました。



私は前回泊まったのはこんな建物のホテルです

ところが再開発で、駅前自体が私の記憶にあったクラカウ駅とはまったく違うものになっていました。

私が以前泊まったホテルは、駅から2番目に近いホテルになっており、危なくてごみごみしているイメージがあった駅前周辺は夜まで多くの人の往来がある。

夜遅くまで営業しているショッピングセンターもある。



駅前の様子、奥に見えるのがショッピングセンター

しかし、風景が変わると、10年前の記憶が何もよみがえってきません。

一抹の不安もよぎってきます。

はたして、10年前に訪れたアウシュビッツは「そのまま」なのだろうか……

私は10年前の記憶といまを重ねることはできるのだろうか……

立花先生とツアーの参加者とともに、あのときの筆舌しがたいショックを体験することはできるのか？

ともあれ、立教立花ゼミと東大有志のアウシュビッツツアーは始まりました。

それは、立花先生という「古猫（ねこ）」のもとに集まった、立教大学 21 世紀社会デザイン研究科という「ねこ屋敷」に住む「社会人ねこ」、そして、立教の学部生ゼミ「こねこ」と東大立花ゼミのネコツアーだったのです。